



Critical Archive vol.2 前夜 Eve Frontline Critical Perspectives on World War II and Painting



クリティカル・アーカイヴ vol.2

前夜/前線 Critical Perspectives on World War II and Painting

このたび、ユミコチバアソシエイツでは、20世紀絵画を独自の視点から論じた研究冊子「クリティカル・アーカイヴ vol.2 前夜/前線 Critical Perspectives on World War II and Painting」を刊行いたします。

シリーズ2回目となる今回は、「戦争と絵画」をテーマに、批評家、美術家、学芸員、美術史家として活動している沢山遼、石川卓磨、弘中智子、河本真理の各氏を迎え、それぞれの見解を持ち寄り、日本と西洋の20世紀絵画の再検討を行います。香月泰男、浜田知明、福沢一郎そしてヴォルスといった、主として1930年代～50年代に第二次大戦を通して新たな絵画的諸問題に直面した画家たちの実践が取り上げられています。ぜひ、ご注目ください。

「前夜／前線」は、2013年から14年にかけてユミコチバアソシエイツを拠点に行なわれた「戦争と絵画」を主題とした研究プロジェクトである。本書は、その成果として4本の論考を収める。本書において私たちは、一般に「戦争記録画」と呼ばれる狭義の戦争画ではなく、来るべき昏い時代に向けて、広義の〈戦争画〉の問題に取り組むことを目指した。この〈戦争画〉においては、戦争経験は、戦争記録画の「記録」の再現性ではなく、個々の画家の内部から発せられる「証言」の次元を通して検討されることになる。また、私たちは、戦争という、人間主権を剥奪する「例外状態」あるいは「剥き出しの生」の経験から制作主体が置かれた外部状況と絵画との関係を探ることによって、作品分析の次元に制作主体の分析が折り返される批評的視座の獲得を構想した。さらに、従軍による制作期間の中断や、戦前・戦中の経験が戦後に持ち越される一連の〈戦争画〉では、戦後美術が前提としてきた時代との併行性、あるいはモダニズム一般の芸術が前提としてきた「いま、ここ」の現前性が解体され、現在時との時差や空間的偏差こそが前景化するという点にも留意しておきたいと思う。私たちは、このような枠組みにおいて近代という時代を再考し、具体的かつ緻密な方法論的取り組みにおいて、感性的・美学的次元と政治的次元が直結する、絵画という媒体の可能性を現在時へと召還することを企図している。その意味で本書は、現在時に対する切実かつ現実的な「運動」として組織されるものである。本書が掲げる「前夜／前線」とは、ここで記述される画家たちがかつて存在した場所であると同時に、いままさに私たちが存在するこの場所にほかならないからだ。

論者を代表して——沢山 遼 （本書 前文より）

クリティカル・アーカイヴは、2011年に高松次郎について書いてもらいたいと、4人の若手評論家、批評家に原稿を依頼したところから始まりました。その1年後に発行されたクリティカル・アーカイヴは、高松という作家を批評するにとどまらず、作家を取り囲んでいた時代観と思考をも浮き彫りにしました。

批評するということは、一人の作家にとどまらず、時代や歴史や世界を批評することでもあります。それは、取りこぼした歴史を拾うことであると同時に歴史を継承することでもあります。批評という行為、その行為を評価することを、今だからこそ考えていきたいと思っています。

Yumiko Chiba Associates 代表 千葉 由美子



■研究冊子

『クリティカル・アーカイヴ vol.2 前夜/前線 Critical Perspectives on World War II and Painting』

「限界経験と絵画の拘束——香月泰男のシベリア」 沢山 遼（美術批評）

「戦争と銅版画——浜田知明の「戦争」画について」 石川卓磨（作家、美術批評）

「福沢一郎と戦争——絵画と研究所——」 弘中智子（板橋区立美術館学芸員）

「ヴォルス——戦争／収容所／総合芸術作品」 河本真理（美術史家、日本女子大学教授）

発行：ユミコチバアソシエイツ

発行日：2014年6月22日

仕様：A5サイズ、本文160頁、和英表記

販売価格：2,800円（税別）

協力：株式会社ヒューリスティック <http://www.heuristic.com/>

■トークイベント Session 4: 「前夜/前線」刊行記念—ヴォルス論を中心に

沢山遼×石川卓磨×弘中智子×河本真理

2014年8月1日(金) 19:00-21:00、事前予約制、参加費 500円(レジュメ付)

* 当日に限り、研究冊子を特別価格 2,500円(税別)で販売いたします。

【お申し込み方法】

件名「前夜/前線トークイベント」、お名前、ご住所、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp まで、メールにてお申し込みください。

* 定員(25名)に達しましたら、受付を終了いたします。

* ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

■プロフィール

沢山 遼 (さわやま りょう)

1982年生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。美術批評。主な論考に「ジャクソン・ポロック—隣接性の原理」(『ART TRACE PRESS 01』2012年、ART TRACE)、「盲目的遮蔽空間—先キュビズムと《アヴィニヨンの娘たち》」(『ART CRITIQUE n.02』2012年、constellation books)「繫辞なき反復—高松次郎の非＝命題」(『Jiro Takamatsu Critical Archive 高松次郎論集 vol.1』2012年、ユミコチバアソシエイツ)など。

石川 卓磨 (いしかわ たくま)

1979年生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。作家、美術批評。主な展覧会に「世界と孤独 Vol.2 石川卓磨展」(2012年、日本橋タカシマヤ 6階美術画廊 X)、など。主な評論に「クリストファー・ウィリアムスのリンゴ」(『所沢ビエンナーレ「引込線」2011』)、「折り返される場所“アメリカ抽象絵画の巨匠バーネット・ニューマン”展」(『美術手帖』2010年11月号)など。

弘中 智子(ひろなか さとこ)

1979年生まれ。一橋大学大学院言語社会研究科修了、同大学院博士課程在籍中。2006年より板橋区立美術館学芸員。主な展覧会に「新人画会展」(2008年、板橋区立美術館)、「福沢一郎絵画研究所展」(2010年、同)、「池袋モンパルナス展」(2011年、同)など。主な論考に「帝国美術学校学生とシュルレアリスム」(『武蔵野美術大学研究紀要』No.43、2012年)など。

河本 真理(こうもと まり)

1968年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。パリ第一大学博士号(美術史学)取得。日本女子大学人間社会学部教授。美術史家。主な著書に『切断の時代—20世紀におけるコラージュの美学と歴史』(ブリュッケ、2007年、サントリー学芸賞、渋谷・クロードル賞ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞)、『葛藤する形態—第一次世界大戦と美術』(「レクチャー 第一次世界大戦を考える」人文書院、2011年)など。

【本件に関するお問合せ】

ぜひ御紹介くださいますよう宜しくお願い申し上げます。尚、御質問は下記までご連絡下さい。
ユミコチバアソシエイツ 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316
Tel: 03-6276-6731 e-mail: info@ycassociates.co.jp website: www.ycassociates.co.jp
営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日・月・祝日